

名古屋市耐震診断報告書作成シートの概要

項目	入力	注意事項
1. 耐震診断を実施した建築物概要		
受付番号	220000	
調査年月日	220401	
申込者(建物所有者)	名古屋太郎	
建物名称	名古屋太郎邸	
所在地	港区〇〇町△△番地	
用途	専用住宅	
建築年度(着工日)	昭和36年(1961年)	
構造形式	在来軸組構法(方法1)	
1階床面積	67.90	m ²
2階床面積	49.69	m ²
延べ床面積	117.59	m ²
2. 耐震診断の結果		
結果	倒壊する可能性が高い	0.4
3. 現地調査結果		
予想震度	予想震度は6弱程度	※地震マップより入力
地盤の状況(液状化危険度)	液状化危険度のランク: 低(発生する可能性2%程度)	※地震マップより入力
地盤種別	普通(軟弱地盤割増1.0)	1
地盤の対策	特別な対策を行っていない	
地形	平坦、普通	※土砂災害危険箇所は地震マップによる
対策	特別な対策を行っていない	
基礎	Ⅱ 無筋コンクリート基礎でひび割れが生じている	※報告書のコメントに要します
屋根仕様	土葺瓦屋根	240
外壁仕様	ラズモル(土壁)	120
内壁仕様	ボート貼(土壁)	40
建物の重さ	非常に重い建物	※N/Aが表示されるときは仕様が入力です

入力用シート

印刷用シート

◆バージョンの確認◆

報告書作成シートのバージョンが表示されています。最新のものをお持ちでない方は耐震化支援室へお問い合わせください。
(H23年4月現在は Ver 5.0 が最新です。)

◆サイズ設定◆

耐震診断報告書作成シートの初期設定は見やすいように大きめの表示をしてあります。見にくい場合は「表示」→「ズーム」で調整してください。

※ここでの診断報告書作成シートに関する説明は『名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル』の補足になります。詳しくはマニュアルを参照してください。

◆各シートの説明◆

耐震診断報告書作成シートは報告書入力、診断員データ入力、診断通知書印刷、報告書印刷、報告書印刷(伝統工法)の5枚のシートで構成されています。

報告書作成シートで診断結果等を入力するのは報告書入力と診断員データ入力の2枚の入力用シートのみです。残り3枚のシートは印刷時のみ使用する印刷用のシートで、入力用シートで入力した情報が転記され診断通知書・診断報告書を構成します。

※『診断員データ入力シート』、『診断通知書印刷シート』の使用方法は名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル(診断方法、報告書作成編)を参考にしてください。

◆入力方法◆

次ページ以降を参照してください。



◆診断報告書の印刷方法◆

報告書入力、診断員データ入力シートへの入力が完了していることを確認してください。診断方法によって印刷するシートが異なります。診断方法が在来軸組構法(方法1)の場合は『報告書印刷』シート、伝統構法(方法2)の場合は『報告書印刷(伝統構法)』シートを選択してください。

印刷プレビューをして印刷範囲が適切かどうか確認してください。入力用シートから転記される部分が赤字で表示されるようになっていきますので白黒印刷の設定をして印刷をしてください。

報告書入力シートへの入力

現地調査時に使用した耐震診断現地チェック表（診断員に診断員資料として渡しているもの）を参考にに入力してください。耐震診断現地チェック表と報告書作成シートは同じ構成をしているので入力が簡単になります。

Microsoft Excel - ×名古屋市耐震診断報告書作成シートVer.4.0(パスワードなし利用不可).xls [読み取り専用]			
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)			
H17 氏			
	A	B	C
1	耐震診断報告書作成シート Ver.4.0	緑地欄: 選択入力 ▼から選択して入力	灰色欄: 自動入力
2		黄地欄: 個別入力 キーボード入力	
3	項目		注意事項
4	1. 耐震診断を実施した建築物概要		
5	受付番号		!入力してください
6	調査年月日		!入力してください
7	申込者(建物所有者)		!入力してください
8	建物名称		!入力してください
9	所在地		!入力してください
10	用途		!入力してください
11	建築年度(着工日)		!入力してください
12	構造形式		!入力してください
13	1階床面積		m ²
14	2階床面積		m ²
15	延べ床面積		m ²
16	2. 耐震診断の結果		
17	結果		#DIV/0!
18	3. 現地調査結果		
19	予想震度		※地震マップより入力
20	地盤の状況(液状化危険度)		※地震マップより入力
21	地盤種別	普通(軟弱地盤割増1.0)	1.0
22	地盤の対策		!入力してください
23	地形	状況	※土砂災害危険箇所は地震マップによる
24		対策	!入力してください
25	基礎		※報告書のコメントに影響します
26	屋根仕様		#N/A
27	外壁仕様		#N/A
28	内壁仕様		#N/A
29	建物の重さ		#N/A ※N/Aがまぎれるときは必ず入力してください
30	平面の特徴	特徴	
31		短辺幅	1
32	立面の特徴		!入力してください
33	床仕様	床仕様	!入力してください
34		吹き抜け	!入力してください
35	主要な柱径		!入力してください
36	接合部		!入力してください
37	使用履歴		※最新年を入力
38	増築	有無/年	無
39		状況	- ※選択できないときは特記事項で入力
40	改築	有無/年	無
41		状況	-
42	補修	有無/年	無
43		状況	-
44	用途変更	有無/年	無
45		状況	-
46	特記事項		※全角30文字まで入力可 ※全角77文字まで入力可
47	特殊構造・特殊工法の有無		
48	スキップフロア等	無	※原則無
49	ツーバイフォー工法	無	※原則無
50	工業化住宅	無	※原則無
51	混構造 RC+木造・S+木造等	無	※原則無
52	伝統構法型木造住宅部分	無	
53	設計図書等の調査		
54	関係図書		
55	建築確認図書	無	
56	住宅金融公庫関連図書	無	
57	設計図		
58	平面図	無	※報告書のコメントに影響します
59	立面図	無	
60	詳細図面	無	

◆入力方法◆

黄色のセル

キーボード入力部分

青色のセル

選択入力の部分

灰色のセル

自動入力の部分（入力不要）

主要入力部分の説明

耐震診断を実施した建築物情報をを入力する部分です。

◆地盤評価を入力する部分◆

《あなたの街の地震マップ》より・を入力すると地盤種別が自動選定されます。
WE Eの建物概要入力の⑥軟弱地盤割増はこの地盤種別を利用します。

◆建物仕様を入力する部分◆

屋根・外壁・内壁の各仕様を入力すると建物の重さが自動選定されます。
WE Eの建物概要入力の④建物仕様はこの建物の重さを利用します。

◆建物概要を入力する部分◆

WE Eの建物概要入力の⑦形状割増係数、⑨基礎形式、⑩床仕様、⑪主要な柱径、⑫接合部もこのこと同じ仕様を入力してください。

61	構造図等		無	
62	現地建築物との相違 1階平面		無	
63	現地建築物との相違 2階平面		無	
64	現地建築物との相違 立面		無	
65	部分点検査票			
66	部位等		調査内容	コメント ※全角24文字まで
67	建物周囲の地盤条件		擁壁等はない	
68	構造耐力上主要な軸組等			
69	柱: 部材の断面欠損		部材の欠損は確認不能	
70	梁: 部材の断面欠損		部材の欠損は確認不能	
71	桁: 部材の断面欠損		部材の欠損は確認不能	
72	筋かいの存在		筋かいの有無は確認不能	
73	筋かい等: 部材の断面欠損	存在 ↓	筋かいの欠損は確認不能	
74	土台と柱: 接合金物	不明	確認不能	
75	柱と梁桁: 接合金物	不明	確認不能	
76	筋かい材: 接合金物	不明	確認不能	
77	床組部分の状況		確認不能	
78	梁と柱、差し鴨居: 接合方法		確認不能	
79	筋かい端部: 接合方法		確認不能	
80	水平剛性の確保			
81	2階床面又は小屋梁面		問題無(水平剛性が保たれている)	
82	吹抜け		吹抜けなし	
83	下屋、増築部: 接合方法		下屋や増築部はない	

◆コメント入力用セル◆
黄色のコメント入力用セルがある部分で何か特別コメントをすることがあれば、入力してください。診断報告書へコメントが転記されます。

◆劣化度・存在点数
を入力する部分◆
左記の部位がある(存在する)場合は【有】を選択してください。
WEEの劣化度入力も同じ内容を入力してください。

84	劣化度調査票			
85	部位	存在 ↓	劣化現象 ※存在があるもののみ入力チェックする	
86	屋根葺き材: 金属板	無		
87	屋根葺き材: 瓦・スレート	無		
88	軒・呼び樋	無		
89	縦樋	無		
90	外壁仕上げ: 木製板、合板	無		
91	外壁仕上げ: 窯業系サイディング	無		
92	外壁仕上げ: 金属サイディング	無		
93	外壁仕上げ: モルタル	無		
94	露出した躯体	無		
95	バルコニー手すり壁: 木製板、合板	無		
96	バルコニー手すり壁: 窯業系サイディング	無		
97	バルコニー手すり壁: 金属サイディング	無		
98	バルコニー: 外壁との接合部	無		
99	バルコニー床排水	無		
100	内壁: 一般室内壁、窓下	無		
101	内壁: 浴室の外壁	無		
102	内壁: 浴室の外壁以外	無		
103	床面: 一般室	無		
104	床面: 廊下	無		
105	床下	無		
106	存在点数=		劣化点数=	
107	※上記「存在点数」と「劣化点数」が診断プログラムの「7. 劣化度による低減係数」と一致するが確認してから印刷すること			

◆劣化度・劣化点数
を入力する部分◆
左記の部位がある(存在する)部分の劣化現象を選択入力してください。
WEEの劣化度入力も同じ内容を入力してください。

◆存在点数・劣化点数の
合計が表示される部分◆
WEEの劣化度入力の合計と同じ点数である事を確認してください。

注意！！
ここまで入力し終わったらWEEを入力し、計算結果を次行から入力します。
※エクセルシート入力の順番
①1~123行までを入力
②WEEを①を参考に入力
③124行以降を②を参考に入力

◆WEEの計算結果を
転記入力する部分◆
WEE診断結果の3. 必要耐力の算出のA: 床面積とQr: 必要耐力を転記入力してください。

122					
123					
124	【診断結果入力】				
125	診断プログラム出力「3. 必要耐力の算出」より入力				
126	階	A	Qr		
127	2階	床面積	必要耐力		
128	1階				
129	診断プログラム出力「6. 上部構造評点」より入力				
130	診断方向	強さ P(kN)	配置などによる低減係数 E	劣化度 D	
131	2階X方向				
132	2階Y方向				
133	1階X方向				#DIV/0!
134	1階Y方向				
135	※「劣化度 D」が診断プログラム「7. 劣化度による低減係数」の値と一致しないときは入力を確認してください。↑↑				

◆WEEの計算結果を
転記入力する部分◆
WEE診断結果の8. 上部構造評点のP: 強さとE: 配置などによる低減係数を転記入力してください。

136				
137	【各種協議経過】 診断報告までの間に申込者や市役所との間で協議した内容を入力			
138	協議先	担当	協議内容	協議年月日
139				
140				
141				
142				
143				
144				
145	【診断結果】			
146	診断方向	Qr	Pd	Pd/Qr
147	2階X方向		#DIV/0!	#DIV/0!
148	2階Y方向		#DIV/0!	#DIV/0!
149	1階X方向		#DIV/0!	#DIV/0!
150	1階Y方向		#DIV/0!	#DIV/0!
151	【診断結果(床面積補正後)】			
152	診断方向	採算耐力 $P_{eFP} \times E \times D$	床面積あたりの必要耐力(精算) (Kn/m ²)	必要耐力 Qr(kN)
153	2階X方向	#DIV/0!		
154	2階Y方向	#DIV/0!		
155	1階X方向	#DIV/0!	#N/A	#N/A
156	1階Y方向	#DIV/0!	#N/A	#N/A
157				
158	診断方向	Pe補正	補正後保有耐力 $P_d = P \times E \times D - P_e$ 補正	Pd/Qr
159	2階X方向		#DIV/0!	#DIV/0!
160	2階Y方向		#DIV/0!	#DIV/0!
161	1階X方向	#N/A	#DIV/0!	#DIV/0!
162	1階Y方向		#DIV/0!	#DIV/0!
163				
164	診断方向			Pd/Qrの決定値
165	2階X方向		2階についてはフロアと比較し小さな値	#DIV/0!
166	2階Y方向		2階についてはフロアと比較し小さな値	#DIV/0!
167	1階X方向		1階についてはフロアと比較し大きな値	#DIV/0!
168	1階Y方向		1階についてはフロアと比較し大きな値	#DIV/0!

◆各協議経過◆

診断報告までの間に市役所等と診断方法について協議した内容を入力

◆診断結果を自動計算する部分◆

診断結果を自動計算する部分ですので入力の必要はありません。

169			
170			
171	【耐震改修工事のアドバイス】		
172	項目	アドバイス	注意事項
173	壁量		各該当項目を選択 または、 必要に応じて文章 を修正
174	金物		
175	水平剛性		
176	基礎		
177	劣化		
178	その他		その他、アドバイスを追加する場合には入力
179			

◆耐震改修工事のアドバイス◆

診断報告書の耐震改修アドバイスの欄に転記されます。

診断結果報告書の見方

総合評価(診断結果)		
【地盤】		
地盤	対策	注意事項
普通(軟弱地盤割増1.0)	特別な対策を行っていない	予想震度は6弱程度。液状化危険度のランク: 低い(発生する可能性2%程度)
【地形】		
地盤	対策	注意事項
平坦、普通	特別な対策を行っていない	
【基礎】		
基礎の状況	注意事項	
Ⅱ 無筋コンクリート基礎でひび割れが生じている	地震時に、基礎が曲げ破壊し上部構造の性能を十分に発揮できない可能性があります。鉄筋コンクリート基礎などを沿えて基礎を補強しましょう。	

◆地盤・地形・基礎の診断結果が表示される部分◆
一般診断法では地盤・地形・基礎などと、上部構造評点が分けて評価されています。

【その他注意事項】			
この診断は国土交通省による木造住宅の耐震診断と補強方法に基づくもので、十分信頼できるものですが、個々の建物ごとに状況が異なるため、あくまで安全性を判断する目安であり、判定を完全に保証するものではありません。また、図面などの資料がなく、状況が十分に把握できない場合は推計によりますので、診断結果は幅をもってとらえてください。			
この診断では目視できた筋かいがなく、旧図面もないため筋かいを評価していません。筋かいが存在すれば実際の評価は上がります。			
【上部構造】			
診断方向	<診断プログラム計算値> (補正なし)		(判定値とは) ※階、各方向について、保有する耐力が必要耐力の何倍あるか。最も小さい数値が建物の判定となります。 0.5以上 : 倒壊しない 0.0以上1.5未満: 一応倒壊しない 0.7以上1.0未満: 倒壊する可能性がある 0.7未満 : 倒壊する可能性が高い ※震度6強から震度7クラスの大規模な地震に対して倒壊の可能性を判定します。
	必要耐力 Qr(kN)	上部構造評点 Pd/Qr	
		最小値	
	2階X方向	38.76 0.551	
	2階Y方向	38.76 0.457	
1階X方向	95.74 0.516		
1階Y方向	95.74 0.593		
		0.46	

◆上部構造評点の診断結果が表示される部分◆
WEEと同じ上部構造評点の診断結果が各階X・Y方向別に表示されます。
一般診断法では2階建の場合、総2階と想定して必要耐力を算出しています。(部分的な2階の場合などでは安全側の評価となります。)

基礎補強	壁の配置	劣化度	階数	延べ面積	枚数※	備考
補強が必要	改善が必要	改善が必要	2階建て	117.59㎡	19	概算壁枚数です
※補強必要壁枚数は壁の配置と劣化度がないときに構造用合板を巾90cmで施工したときの必要箇所数です。						
改修場所	壁部	補強材料	構造用合板 厚さ7.5mm以上			
階	方向	箇所数	合計	壁の配置	備考	
2階	X方向	5	19	バランスよく配置する	接合部の金物も適切に設けてください	
	Y方向	4				
1階	X方向	6				
	Y方向	4				

◆精算法による必要耐力補正後の改修補強壁枚数◆
精算法による必要耐力補正後、配置などによる低減係数・劣化度による低減係数を1.0へ改善したと仮定した場合に不足している壁量を構造用合板(壁強さ倍率5.2)でおよそ枚数かを表します。

【耐震改修工事に向けたワンポイントアドバイス】		
劣化度	劣化部分があります 劣化部分を改善しましょう。	
壁の配置	2階	X方向 壁量のバランスはよい
		Y方向 領域化Dの壁量に偏りがありバランスが悪い
	1階	X方向 壁量のバランスはよい
		Y方向 壁量のバランスはよい
基礎補強	ひび割れ補修	
	補強が必要	鉄筋コンクリート基礎の打ち増し補強
		鉄筋コンクリート基礎の新設・増設補強 ベタ基礎補強

◆改修アドバイス◆
次ページの耐震改修工事アドバイスとともに診断報告書を渡す時、改修工事の説明などに利用してください。

【耐震改修概算工事費】			
壁補強による耐震改修概算工事費	¥1,990,000	~ ¥2,490,000	
【基礎補強の概算工事費】			
基礎形式	Ⅱ 無筋コンクリート基礎でひび割れが生じている	概算工事費	備考
補強方法	鉄筋コンクリート基礎の打ち増し補強	80,000円/m	補強は必要です

◆概算工事費◆
補強壁枚数を平成19年度の改修助成制度の実績データ(平均工事費)より算定にしたものです。



【耐震改修工事のアドバイス】

- ・壁の量は満足しているのですが、配置は偏っています。バランスを保てるよう壁を設置してください。
- ・筋かいの接合金物が不足しています。地震時に筋かいの効果が発揮できない可能性がありますので金物補強を行ってください。
- ・2階の床に火打ち材が無く、床組みの強さが不足しています。補強を考慮してください。
- ・無筋基礎は大きな地震力に耐えられないことがあります。基礎の補強をお勧めします。
- ・土台の劣化をそのままにしておくと、構造躯体に著しく影響を与えます。補修を検討してください。

【耐震改修工事における設計・工事監理】

- ① 耐震改修工事には、建築士による設計と工事監理が必要となり、別途費用が掛かります。
詳しくは、耐震改修設計を依頼する建築士にお尋ねください。
- ② 依頼する建築士に、「改訂 愛知県木造住宅耐震診断マニュアル〈一般診断法による診断〉」による総合判定及び、(財)日本建築防災協会による「木造住宅の耐震診断と補強方法」改訂版の総合評価に基づき、耐震改修設計図面を作成してもらい、その上で工事見積書をお願いしましょう。建築士から提示された改修設計の内容をよく確認のうえ、耐震改修工事を行いましょう。

※耐震改修・補強工事を行う前に、必ず建築設計事務所等からの業務報酬見積りや契約を書面で取り交わしましょう。

■ 報告者

【所属】	△△設計事務所	【資格】	一級建築士
【所在地】	港区□□町□□番地	【氏名】	耐震次郎
		連絡先TEL	052-○○○-○○○○

◆ 診断員情報 ◆